森中だより

２月号
令和４年２月18日発行
横浜市立森中学校　校長　吉原　準一

チューリップの芽

ロウバイの黄色、所によっては紅梅も咲き始めました。森中では、チューリップの芽が、色々なところから出てきました。そして、かなり大きくなってきました。このチューリップが咲くのはいつ頃だろう？一緒に見ることができるかな？

個別支援級の合同学芸会のお話です。例年であれば、西公会堂で発表するものを、コロナの関係で、磯子公会堂に変更し、区内発表に縮小しました。それも中止となりVTRでの発表なりました。先日録画撮りがありました。森中の出し物は、トーンチャイムの演奏とBTSのダンスでした。和音のきれいな響きと３分以上の難しいダンス。大変に上手だったので、お礼に唄を歌わせてもらいました。

君たちは、みんな大事な大事な「若き花々」です。コロナなんかに負けないで、自分の花を咲かせる努力を続けてください。

１月26日朝の５時、天頂には、大きく「春の大曲線」。春は、すぐそこ。

校長　吉原　準一

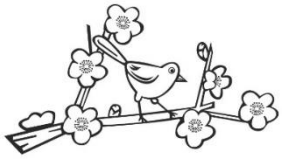
当たり前のことが自然にできること

暦の上では、立春を過ぎ春です。ここから日差しが少しずつ長くなり力強くなり、寒さの中にも春の訪れを感じさせてくれる頃です。「西風の賦（みつぎ）」の詩の一節に「冬来たりなば春遠からじ」があります。めげてしまいそうな自分を振るい立たせます。「厳しく辛いことだけの連続だけで無く、努力の後に、喜びや楽しさは必ずやってくる」と今年はコロナ禍の中、特に励まされています。

２月は、３年生にとっては、進路を決めるにあたって「自分を伸ばす機会」となります。１・２年生は、授業をはじめ、学校生活を充実させ、何事にも「普段からの心がけ」を大切にして、学校生活や日常生活を送ってほしいです。そのためには当たり前の事を当たり前の事として行えることの積み重ねが大切であると思っています。株式会社イエローハットの創業者である鍵山秀三郎氏が言われた一説です、紹介します。

〇特別なことでなく、ごく平凡な当たり前のことを徹底していくこと
〇当たり前のことを人にはまねができないほど一生懸命にやること
〇人との挨拶や整理整頓をしっかり自然にできること　など

例えば、履物を脱ぎっぱなしにしないできちんと揃え、他人の履物もきちんと揃えたり、人に会ったら挨拶ができたり、人から親切にしてもらったら素直に「ありがとう」と言えたりするなど、当たり前のことが自然にできることだと思います。

コロナ禍ではありますが、そのことを継続しながら、学習への取組や日常生活をのり切ってほしいと願っています。

副校長　新井　利秋